

氏名	栗飯原文子（あいはら あやこ） 准教授
こんな研究をしています	英語圏・仏語圏アフリカの文学、特に小説を中心に研究しています。 そのほか、アフリカの映画や音楽についても学んでいます。
こんな成果を挙げています	<p>【共著】</p> <p><i>Crossing Places: New Research in African Studies</i>, Cambridge Scholars Publishing, 2007 年. 『グローバルヒストリーとしての「1968 年」——世界が揺れた転換点』ミネルヴァ書房, 2015 年.</p> <p>【論文】</p> <p>“Modernity, Struggle and the Urban Dream: Yvonne Vera’s <i>Butterfly Burning</i>”, <i>Studies in English Literature</i>, English Number 49, 日本英文学会, 2008 年 3 月.</p> <p>“African “Modernist” Mythopoeia and Aesthetic Traditionalism: Yvonne Vera’s <i>Nehanda</i>”, <i>Studies in English Literature</i>, English Number 53, 日本英文学会, 2012 年 3 月.</p> <p>「移動をめぐるアフリカの物語」『思想』岩波書店, 2017 年 8 月号.</p> <p>「アフリカ文学が紡ぐ「いま」 第 1 回 アフリカ文学とはなにか ——五〇年後の始まり」『思想』岩波書店, 2018 年 10 月号</p> <p>【翻訳】</p> <p>ヴィジャイ・ブラシャド『褐色の世界史——第三世界とはなにか』水声社, 2013 年. アルンダティ・ロイ『ゲリラと森を行く』以文社, 2013 年. チヌア・アチュベ『崩れゆく絆』光文社古典新訳文庫, 2013 年. ウォレ・ショインカ「狂人と専門家」『紛争地域から生まれた演劇 7』国際演劇協会日本センター, 2016 年. チゴズィエ・オビオマ『ぼくらが漁師だったころ』早川書房, 2017 年.</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> ・パンアフリカニズムの歴史 ・アフリカ哲学 ・旧植民地世界の文学 ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ（いわゆる第三世界）の連帯の歴史 ・第三世界における民族主義とマルクス主義の展開
こんな授業を行なっています	さまざまな地域・言語圏の文化/文学を読解、分析するための理論と実践方法を学びます。今年度はカルチュラル・スタディーズの議論に触れて、多岐にわたるトピックをカバーします。
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> ・日本英文学会、日本アフリカ学会、African Literature Association に所属しています。 ・ときおり学外での講演や講座、トークなどに招かれて、アフリカ文学や自分の仕事について話しています。昨年度はかわさき市民アカデミーで講座を担当しました。